

【総括】

本症例は、右大腿外側部痛（癌性疼痛）および腹部膨満感、手のしびれに対して鍼灸治療を介入してきた。

右大腿外側部痛は状態悪化に伴い、強い痛みを訴える時もあったが、前回入院時と比較すると、痛みは落ち着いていたことから、有効であったと考える。

腹部膨満感は、鍼灸治療直後は張った感じはマシになっていると言われるも、途中より評価が理解できなくなるといった状態があったため、VAS 評価が得られていた時の結果から、やや有効と診断した。

手の痺れは、鍼灸治療直後にはしびれの軽減が認められるも、経過とともに握力の低下、上肢の運動障害が認められ、検査の結果、頸椎転移による影響であることが分かった。癌性によるしびれは非常に難しく、進行が速いため、薄皮がめくれた程度の改善しかできなかった。そのため、手の痺れに対してはやや有効と診断した。

本症例は、非常に強い信頼関係が得られていたことから、大きな苦痛を伴うターミナル期の症状の緩和ならびにスピリチュアルな問題に対しても少なからず貢献しえた症例であった。

20130004 (No. 54)

【患者】72歳、男性

【既往歴】肺炎

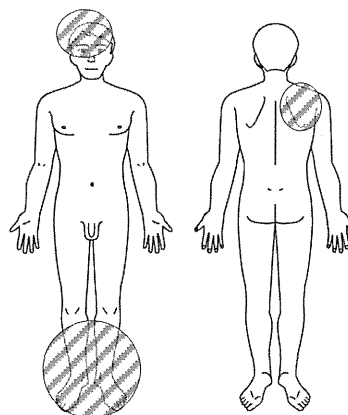
【病態】肺癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

突発的めまいが起こったが、特に異常が認められなかったため、めまいに対しての鍼灸治療を依頼された。鍼灸治療開始後より、右肩痛（癌性疼痛）、薬疹による痒みに対しての追加で依頼があった。



【東洋医学的所見】

安静時に直下型地震の様な衝撃をうけ、眩暈が起こった。現在は体動時やベッドのギャグアップ時に軽度眩暈が起こった。脈診：脾やや滑。左外関緊張、左臨泣軟弱、右地五会軟弱。問診中に咳嗽の頻発あり。手少陽三焦経絡病、津液停滞と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金

製、寫法：銀製)を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には疏通経絡を目的に外関、臨泣。利湿を目的に復溜を使用した。

【総括】

本症例はめまいの改善という事で介入を始めたが、1診目の時点ではめまいがほぼ改善していることから効果は不明と考えた。

2診目以降より右肩痛（癌性疼痛）、5診目～12診目まで下腿に出現した湿疹に対しての治療を行った。結果、痛みは緩和傾向にあり、レスキューも痛みが出現したから使用ではなく、予防的使用に変わっていった。また、家人からも鍼灸治療の無い日は痛みが強いというコメントからも鍼灸治療は効果的であったと言える。

湿疹によるかゆみも1～2回の治療にて赤みが軽減し、痒みも軽減したが塗り薬も使用されていたためやや有効と診断した。

この患者は鍼灸治療介入前、「僕は鍼灸治療は眉唾物で、信じてはいないんだ」と否定的な印象を持たれていたが、ターミナル後期になるにつれ「病院内に鍼灸治療が受けられる施設はできないのですか？絶対に取り入れるべき」といったコメントが多くなった。これらコメントからも鍼灸治療の効果はターミナル期に入った患者にとって必要性の高い治療法の1つであると考えられた。

20140005 (No. 55)

【患者】66歳、男性

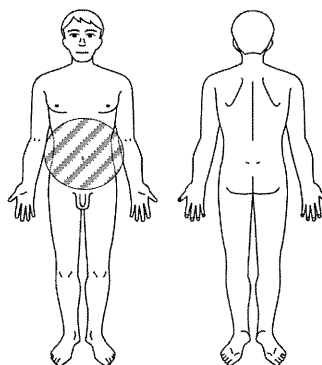
【病態】肺癌

【ターミナル期】ターミナル中～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

疼痛コントロール良好ではあるが、腹部膨満感が強く、食欲消失傾向となったため、鍼灸治療が依頼された。



【東洋医学的所見】

お腹が張って食べる気が起こらない。脈診：肝弦、胃弦。舌診：暗淡紅、白膩苔、舌下静脈怒張、瘀斑あり。右胸脇苦満。右足陽明経緊張、左三陰交軟弱、右行間圧痛、右期門圧痛。肝胃不和と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に足三里、三陰交、期門を使用した。

【総括】

本症例は食欲不振を伴う、腹部膨満感（癌性腹膜炎）に対して鍼灸治療を施行した。

介入後、食事量はほとんど変わらないが、患者コメントから「前に比べたら、お腹も腰もマシや」と、介入前よりは症状の緩和が認められていた。しかし、服薬状況も変わっているため、鍼灸のみの効果とはいええない。治療前後で僅かながら効果があったことから、やや有効と診断した。

本症例は認知症の進行に加え、長期入院に伴うストレスが強く、突然攻撃的な発言が認められた。その点を考慮し、精神的緊張の緩和に対しても鍼灸治療を導入させた方がよかったのではないかと反省させられた症例であった。

20130006 (No. 56)

【患者】29歳、女性

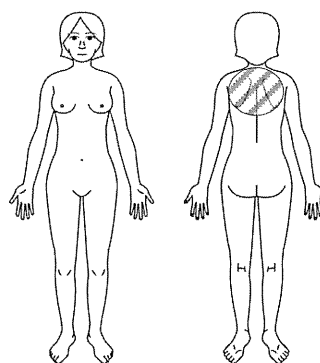
【病態】乳癌

【ターミナル期】術後化学療法中

【転帰】継続中

【鍼灸治療目的】

化学療法の副作用による全身倦怠感、便秘に対し、鍼灸治療を希望された。



【東洋医学的所見】

ホットフラッシュがあり（副作用による）
排便：普通～軟便。しかし、排便時踏んばらないと出ず。始めは硬く、あとは軟便である。睡眠；点滴（抗がん剤）した日は2時、5時に目が覚めていたが、現在はそれほどではない。脈診：やや浮、数（一息六至）、細、輪郭がない、肝・腎無力。舌診：暗淡白、乾燥、瘀斑、舌下静脈怒張、薄白苔
期門圧痛（L>R）、Lt 章門圧痛、太溪軟弱、交信緊張。所見から、気虚・気滞・血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いと

きには皮膚に接触するだけの鍍鍼(補法:金製、寫法:銀製)を使用した。

円皮鍼:セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

灸:ツボ灸(低温)を使用。

使用経穴には補腎を目的に復溜または交信、志室、補気を目的に肺俞、心俞、疏肝理気を目的に期門、風池、天牖、肩井を使用した。

【総括】

今回、化学療法による副作用に対して鍼灸治療を1回/週のペースで行った。1回の鍼灸治療で約3日間の継続効果があり、全身倦怠感および肩こりに対して著効が得られたと考えた。

また、9診目頃から治療中から眠れるほど信頼関係が得られていた。

担癌患者の多くは、その日によって体調が変わりやすい。これまでの経験から、抗癌剤投与後は全身倦怠感が強く、日中も作業ができない事が多い。そのため、倦怠感が強い場合は、補腎治療をベースに入れることが重要であると言える。

20130007 (No. 57)

【患者】86歳、男性

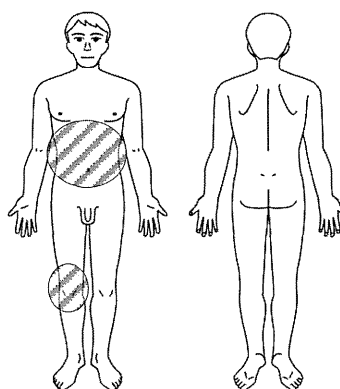
【病態】大腸癌転移

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

便秘および入院前から訴えていた右膝痛に対して、ロキソプロフェンナトリウムを使用するも訴えが頻回になってきたため、依頼された。



【東洋医学的所見】

脈診:肝無力、胃微弦。両外反母趾。右膝前面全体にズキズキとした痛みを訴える。テネスマスは症状緩和していたため、予防的に行う。肝胃不和、気滞・血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼:直径0.12mm、長さ15mm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(1~4mm)とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍍鍼(補法:金製、寫法:銀製)を使用した。

円皮鍼:セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に足三里、三陰交、上巨虚を使用した。

【総括】

痛みを訴えることが口癖のようになるが、どこがどう痛いのかという質問には首をかしげる行為が見られた。認知症も進行していたため、患者本人からの痛みスケールによる評価は取れなかったが、治療前後では膝の屈伸運動時の苦痛表情が認められなかったこと、また、痛みが翌日に戻ってきても以前よりは軽減が認められていることから鍼灸治療は有効であったと考えられた。

便秘は服薬の影響もあり、一概に鍼灸のみで改善したわけではないが、その後症状が再発することがなかったことから、継続的治療によりテネスマス予防になっていたと考える。

20130008 (No. 58)

【患者】43歳、男性

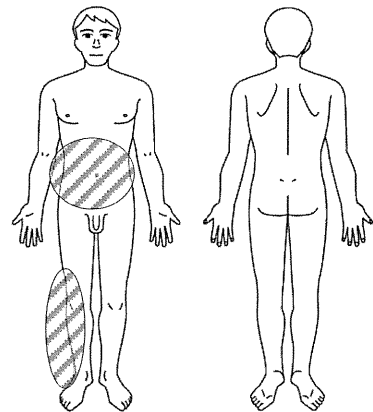
【病態】虫垂癌、回腸漿膜下再燃

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

フェンタニル使用するも、右足、腹部の痛みを訴えており、苦痛表情が常に見て取れていたため、看護師から鍼灸治療を薦めたところ、同意が得られたので依頼となった。



【東洋医学的所見】

右上腹部に強い痛みを訴え、仰向けができない。排便あるも症状緩和にはならない。

脈診：数、腎虚、弦。足背浮腫、右章門圧痛、左公孫緊張、陷谷・外陷谷・地五会圧痕、左上巨虚緊張、胆経緊張（R<L）。肝胃不和、腎陽虚、気滞・血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には補腎目的に太溪、健脾目的に内関、公孫、疏肝を目的に太衝を使用した。

【総括】

本症例は虫垂癌による癌性疼痛に対して鍼灸治療を行った。鍼灸治療介入前の状態では、苦痛表情を見せることが多かったが、鍼灸治療中～1時間程度の短い間は気持ちよさそうに表情も穏やかになり、時折笑顔を見せながら会話をする様子が見られた。

患者コメントから「鍼灸治療は気持ちがいい」とターミナル中期～後期でも鍼灸治療を希望されていたこと、また、鍼灸治療持続効果はあまり望めなかったが、短い時間であっても患者の苦痛が消失していたことから右大腿部痛および腹痛に対しての鍼灸治療効果は有効だったと考えられた。

20130009 (No. 59)

【患者】67歳、男性

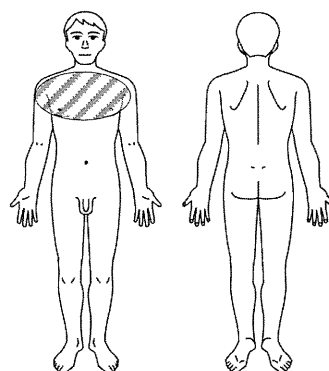
【病態】胃潰瘍（胃部分切除）

【ターミナル期】なし

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

服薬するが症状緩和が認められない嘔気、ムカつきに対して依頼された。



【東洋医学的所見】

脈診：胃滑、腎無力。触診：胸脇苦満（R<L）、臍周囲ソフト、下腹部軟弱、左足三里緊張、太溪硬結（R<L）、左足陽明経熱感。望診：皮膚黒く（太溪に色素沈着あり）・剥落あり（足の指、踝周囲など）、嘔気があることから、肝胃不和と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、内庭、外内庭、俠溪を使用。理気を目的に

足三里、補腎を目的に太溪を使用した。

【鍼灸治療最終評価】

1) 嘔気：著効

【総括】

1 診目後より食事の5割摂取するも、嘔気および嘔気は軽快傾向であった。4 診目後には完全に症状が消失したことで、レストランに行き、海老フライ、カレーを摂取できるほどまでいった。しかし、急に大量に摂取したことにより、2日後より強い嘔気と倦怠感を訴える。続けて、転倒するなども加わり、精神的に食事に対する恐怖を抱くようになってしまった。

今回、嘔気に対して、鍼灸治療は有効であったが、症状改善したと言って、胃に負担になるものを食べないように患者指導も必要であった症例であったと考える。

20130010 (No. 60)

【患者】84歳、男性

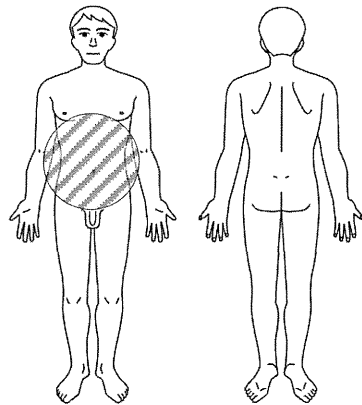
【病態】膀胱癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】中止（のちに逝去）

【鍼灸治療目的】

排便コントロールおよび腹膜播種による癌性疼痛に対して依頼された。



【東洋医学的所見】

胸脇苦満、両足陽明経緊張、腎経軟弱、軽度認知症あり。

脈診：腎無力、脾滑。足背冷え・浮腫。腎陽虚、肝脾不和、気滞・血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1~4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴には理気を目的に足三里、外関、補腎を目的に太溪を使用した。

【総括】

本症例は排便コントロールのため、鍼治療介入した。介入前、便がでない場合は下剤服薬させていたが、介入後からは服薬なく、普通便～軟便にて排便コントロールできたことから、有効と診断した。

それ以外には、腹膜播種に伴う、癌性疼痛が緩和されたことから腹膜播種による痛みに対し、有効であると言える。

長期入院によるストレスによる影響か、認知症悪化によるものか不明ではあるが、攻撃的な強い口調にて鍼灸治療の終了を希望されたため、中止となった。

20130011 (No. 61)

【患者】 67 歳、男性

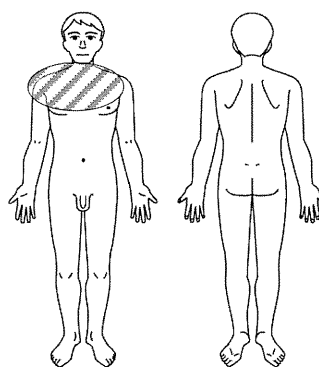
【病態】 食欲不振

【ターミナル期】 特記なし

【転帰】 退院

【鍼灸治療目的】

精神的緩和（イライラ）を目的に継続依頼された。



【東洋医学的所見】

るいそう。脈診：脾滑、肝・腎無力、舌診：紅舌、舌尖紅、白苔（舌中のみ膩苔）。右公孫緊張、左太溪軟弱、右内関緊張圧痛、左太衝軟弱。以上から、肝脾不和、腎気虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍍鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.3mm を使用。

電子温灸器：e-Q を 47 ± 2 度 $\times 5$ 秒設定にて使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、

内庭、外内庭を使用。腸蠕動痛に対し、腸蠕動抑制のため、中脘、滑肉門、天枢、関元に電子温灸器を用いた。

【総括】

前回、嘔気症状が改善した事により、カレーなど胃に負担のかかるものを食べた結果、嘔気が増した。食に対する恐怖心を抱いてしまった。

食習慣に対する改善のために、スタッフによる食事時の見守りにより10口は最低食べるようになったものの、イライラは強い。

また、スタッフには「食べた」といい、実際にはゴミ箱に捨てられていた。入浴の際も自身で洗えていたが、「洗ってくれ」と言い、トイレでも「拭いてくれ」など強い依存が認められた。

このような依存的な症状に対しての鍼灸治療は非常に難しく、食事量に変化がなかったため、鍼灸治療後は嘔気軽減が認められたが、やや有効と診断した。

(20130009 再入院)

20130012 (No. 62)

【患者】75歳、男性

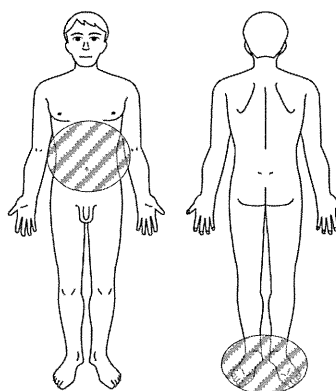
【病態】膀胱癌再発

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院（再入院後、逝去）

【鍼灸治療目的】

膀胱癌再発により、再入院となった。退院後もしびれは継続しており、入院時より軽度悪化が認められたため、足背しびれ、整腸に対し鍼灸治療を依頼された。



【東洋医学的所見】

左足の裏は全部がしびれ、右足の裏は第1～3指がしびれる。17時頃から怠さが増悪する。脈診：沈、腎弦。触診：太溪陥凹、三陰交圧痛、右足三里緊張。腎虚、気虚、血虚、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴にはしびれに対し、八風穴、補血目的に三陰交、補腎目的に太溪を使用した。

【総括】

本症例は膀胱摘出後より発症したしびれと、整腸に対して行った。

愁訴に対する鍼灸治療効果は、しびれ：著効、整腸：やや有効とした。その他にも化学療法による全身倦怠感を訴えることもあったが、鍼灸治療後には改善が認められた。

癌に直接関係する痛み、むかつきは医療スタッフに訴えることはあったが、「こっちがしびれるとか、あっちがおかしいとか、しょうもないことを言えるのは、鍼灸の先生にしか言えん。こんな大した事ないこと言っても、迷惑やしな」と医療スタッフに気を使う面も見られた。

脈を始め、舌、爪、皮膚など些細な所見から治療方針を決める鍼灸治療であるからこそ、聞き出す情報が多く、そのため、医療スタッフとは別の信頼を得ることができたのではないかと考える。

この患者もまた、「この人（妻）が倒れたら、かなん。心配なんや」と、訴えられ、院内での家族ケアのための鍼灸治療室ができることを希望されていた。

20130013 (No. 63)

【患者】48歳、女性

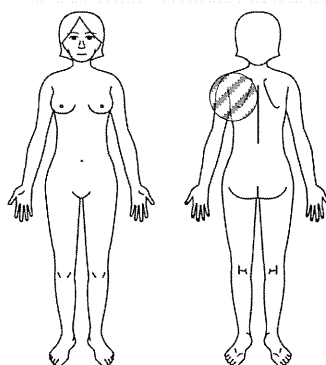
【病態】膻体部癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

検査をしていないため、不明ではあるが、癌転移による左肩甲間部痛の可能性もあったが、患者自身が服薬量をできるだけ抑えたいという思いから鍼灸治療が依頼された。



【東洋医学的所見】

声小さく、黄疸著明、太溪軟弱、痛みの性質：どこかで引っ張られているような重だるいようなズキズキするような痛み。口渇あり。脈診：虚、腎無力。左手太陽・少陽経絡病、肝血虚、腎気虚と診断された。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には疏通経絡目的に外関、

補腎目的に太溪、疼痛局所には理気を目的に使用した。

【総括】

本症例は左肩甲間部痛に対し、鍼灸治療介入した。結果、治療前後では痛みの軽減が認められたが、継続的な効果は得られなかった。患者コメントも考慮し、それらの点から継続的な効果はなかったが、有効と診断した。

しかし、愁訴に対してだけでなく、鍼灸治療中「気持ちがいい」と安心感を与えられていた。この患者は本研究で行っている軽微な刺激を好んでおり「こういう治療ができる場所が分からないし、病院でやってもらえると安心して受けられます」といったコメントがあった。

本症例からは、毫鍼だけでなく、鍔鍼の技術を有し、技術を使い分ける鍼灸師を教育する重要性を痛感した。

20130014 (No. 64)

【患者】 78歳、男性

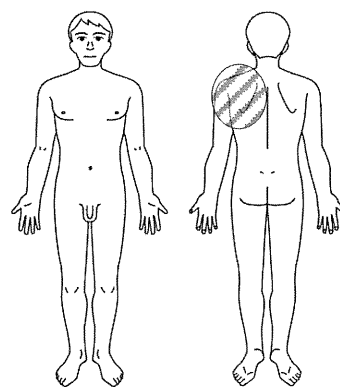
【病態】 肺癌（腺癌）

【ターミナル期】 ターミナル中期～後期

【転帰】 退院

【鍼灸治療目的】

肩背部痛および精神的不安感に対し、鍼灸治療を依頼される。



【東洋医学的所見】

左肩甲間部に重だるい痛みあり。脈診：腎弦、肝渋。下腿細絡。左外関緊張、神門軟弱、左前谷圧痛。左手少陽経絡病、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴には疏肝目的に三陰交、行間、補腎目的に太溪、寧心目的に心俞を使用した。

【総括】

本症例は、肩背部痛に対して行った。コミュニケーションに限りがあるため、わずかな情報の中で行っていた。

鍼灸治療を過去に経験していたが、「鍼灸は信用していない」と1診目に言われていたが、予定時間を少しでも遅れると「まだこないのか」と看護師に確認されており、楽しみに待たれている姿が見られていた。

鍼灸治療を受けている平日は状態が良いが、休日では呼吸苦や疼痛の訴えが多い印象にある。

また、医療スタッフから「治療後から落ち着いている（痛みを訴えていない）」というコメントからも、愁訴である痛みだけでなく、精神的安定にも効果があったと考え、著効であったと診断した。

20130015 (No. 65)

【患者】93歳、男性

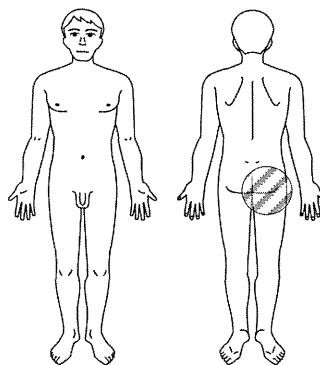
【病態】前立腺癌

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院

【鍼灸治療目的】

転倒後より痛みが続く、右大腿部痛に対して、患者本人からの依頼があり、開始する。



【東洋医学的所見】

脈診：腎無力、触診：右足三里緊張、右足背軽度浮腫。疼痛部位は臥位で圧迫かけても再現されず。膝の屈曲運動にて痛みを訴える。右足陽明経熱感あり。右足陽明経絡病と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用した。

使用経穴には疏通経絡目的に陥谷、外陥谷、疏肝理気目的に行間、補腎目的に復溜、理気目的に足三里を使用した。

【総括】

本症例は癌性疼痛ではなく、膝痛に対して行った。末梢経穴を使用して治療を行っていたが、患者自身は直接刺して欲しいという希望があったため、一度希望に沿って行った。結果、直後満足感は得られたものの、翌日には痛みは変わらなかったまたは痛みが増したため、再度末梢経穴で行ったところ、改善が認められたことから、著効と診断した。

これらからも、満足度の高い局所治療のみならず、末梢経穴を使用した効果的な治療法ができなくてはならないと考える。

20130016 (No. 66)

【患者】 74 歳、男性

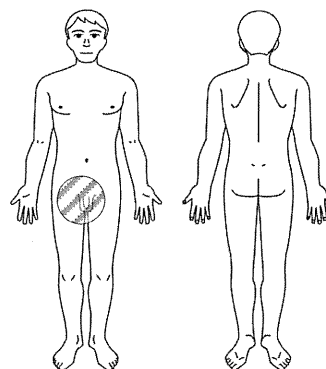
【病態】 膀胱癌（全摘）

【ターミナル期】 特記なし

【転帰】 外来にて継続中

【鍼灸治療目的】

X 年 9 月に退院後、引き続き外来にて経過観察であった。退院後も会陰部痛はあり、消失することはなかった。患者本人の希望により、外来にて鍼灸治療継続となる。



【東洋医学的所見】

脈診：脾・腎弦、肝やや渋。舌診：淡白、白膩苔、舌下静脈怒張。イライラしやすい事から肝胃不和、血瘀と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1~4mm）とする。通電の場合は直径 0.24mm、長さ 90mm を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.3mm を使用。

電子温灸器：e-Q を 47±2 度×5 秒設定にて使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に期門、足三里、三陰交、行間、疏通経絡目的に陰部

神経、次髖の通電を使用した。

【総括】

鍼灸治療は、治療前後の状態から疼痛に対して有効と考える。その理由には鍼灸治療前も「常に痛い。今も痛い」と訴えることも多かったが、置鍼中は居眠りしていたことから痛みは緩和していたと考える。

家にいる間は、家人との関係からストレスを感じる事が多々あり、ストレスが強い時は痛みを訴える回数が増えている。そこで、ペインクリニックの受診や、気分転換に何かすることを提案するも、理由をつけて断っているため、指導の面からも難しい症例と感じた。

20130017 (No. 67)

【患者】 66 歳、女性

【既往歴】 卵巣癌術後（不完全手術）

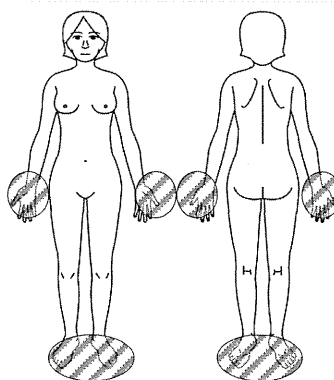
【病態】 卵巣癌

【ターミナル期】 ターミナル前期

【転帰】 外来（のちに緊急入院）

【鍼灸治療目的】

化学療法副作用である手足のしびれに対し、AB 法（偽鍼・鍼）を行った。



【東洋医学的所見】

脈診：肝弦、腎微弦、脾渋

食欲：あり。望診：足の爪肥厚

しびれ：指先(手)VAS=72mm、足背 VAS=90mm

掌 VAS=67mm、足底 VAS=85mm

気虚、血虚と診断した。

【治療方法】

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.3mm を使用。

偽鍼：セイリン社製（鍼なし）を使用した。

使用経穴には八風穴、八邪穴、三陰交を使用した。

【総括】

本症例は化学療法副作用によるしびれに対し、円皮鍼（偽鍼と鍼）を用い、八風・八邪穴、三陰交を刺激し、効果の違いを調

査した。結果的に、大きな差は認められなかった。治療効果はやや有効とした。

状態悪化に伴い、今までできた事が出来なくなったとストレスを感じていた。

20130018 (No. 68)

【患者】85歳、女性

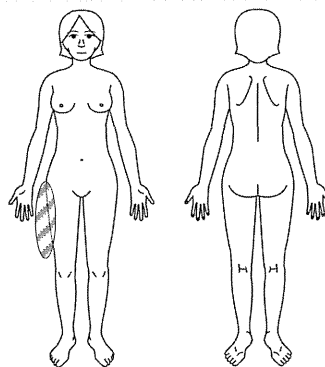
【病態】大腸癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

転倒により右恥骨と坐骨に骨折を確認。入院中、歩行時の右大腿外側部痛に対して鍼灸治療が依頼される。



【東洋医学的所見】

右股関節外側を中心に大腿にかけての痛みを訴える。右股関節他動時痛あり。自動動作もわずかに可能。足指運動可能、感覚障害なし。ムカつきあり。脈診：72回/分、脾肝渋、腎やや渋、細。舌診：淡白、黄膩苔、乾燥。触診：左胸脇部緊張、全体的に表面軟弱、深部緊張。右内庭圧痛・色素沈着、右外内庭圧痛、右俠溪圧痛、四肢に皮下出血多くみられる。行間発汗・圧痛、左三陰交圧痛。BP：131/78、HR：93reg、BT：37.1度。右足少陽経絡病、肝胃不和（ムカつき）と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とし、体調に合わせて接

触するだけの鍔鍼(補法:金製、寫法:銀製)を使用した。円皮鍼:セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、内庭、外内庭、俠溪を使用。補腎目的に太溪を使用した。

【総括】

本症例は右大腿外側部痛に対して鍼灸治療を行った。その結果、1診目3時間後にトイレに行った際は痛みを訴えることはなかった。また、リハビリによる筋肉痛の痛みと混合が認められたため、明確に大腿外側部痛を訴えていた状態の評価をもとに、有効と診断した。それ以外の呼吸苦、浮腫に対しては鍼灸治療を行う時間帯には症状がない、ストッキング着用していたため、状態をみることもできなかったため、今回は介入していない。

他方、家人のストレスが非常に強く、治療に行く際には介護に対する不満、医療に対する不満など多くを涙ながらに鍼灸師に語ることが数回あり、同時に「イライラして患者にあたってしまう」「いつ呼ばれるかとゆっくり眠れない」といった相談を受けた。その際、不眠にはこのツボがいいといった指導を行ったところ、「昨日は朝までゆっくり眠れた」と翌日、感謝された。

これらからも、患者のみならず、介護する側のケアの重要性を示唆するケースであった。

20130019 (No. 69)

【患者】78歳、男性

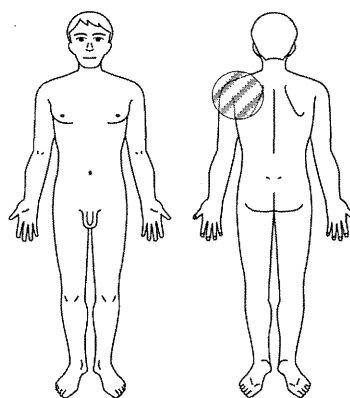
【病態】肺癌(腺癌)

【ターミナル期】ターミナル前期

【転帰】退院(後日再入院 逝去)

【鍼灸治療目的】

精神的不安が強く、一度退院するも、不眠や異常行動が増えたため家族負担が大きく、再入院となった。鍼灸治療を本人が強く希望されたため、不定愁訴に対し介入した。



【東洋医学的所見】

脈診:肝弦、舌診:暗淡白、白膩苔。触診:右神門軟弱、右内関緊張、右腕骨深部硬結、右肺兪軟弱、左神門陥凹発汗。肝血虚、心気虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼:直径0.12mm、長さ15mm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(1~4mm)とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼(補法:金製、寫法:銀製)を使用した。

円皮鍼:セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には健脾目的に内関、寧心目的

に心兪、神門、疏通経絡目的に腕骨を使用した。

【総括】

本症例はせん妄があり、スタッフに暴力やPCマウスを引きちぎるなどの異常行動があるとのことだったが、鍼灸治療時には一切認められなかった。

異常行動が夜間に多いということから、18時頃に施術時間を移動するも、異常行動を見かけることはなかった。

異常行動の評価も難しいため、鍼灸治療の効果があつたとはいえない。そのため、評価は不明とした。

20130020 (No. 70)

【患者】 73歳、男性

【既往歴】 特記なし

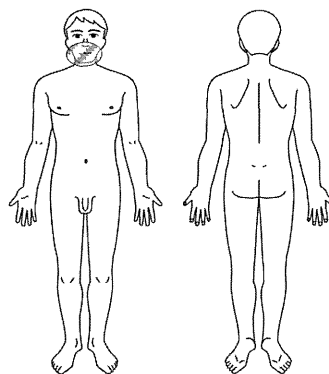
【病態】 胃癌 (StageIV)

【ターミナル期】 ターミナル前期

【転帰】 口内炎に対する治療を終了

【鍼灸治療目的】

化学療法再開したが、副作用である口内炎が出現。休薬し、回復を待つ。服薬効果により、痛みは治まりつつあるが、口内炎の早期回復を目的に鍼灸治療併用となった。



【東洋医学的所見】

足陽明・厥陰経に熱感あり。脈診：肝弦。

口内炎箇所は口を開けられないことから確認はとれなかったが、唇にただれがあるのは確認が取れた。胃熱と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm (セイリン製 5分-02 番鍼) を使用し、刺入深度は切皮程度 (1~4mm) とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼 (補法：金製、寫法：銀製) を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.3mm を使用。

使用経穴には陽明経の清熱を目的に行間、内庭、外内庭、俠溪を使用した。

【総括】

本症例は口内炎に対して鍼灸治療介入したが、介入した時点で回復時期に入っていたため、鍼灸治療効果があったかどうかは不明である。しかし、治療開始してから痛みが悪化することはなかったため、予防的に作用していたのではないかと考える。

20130021 (No. 71)

【患者】64歳、男性

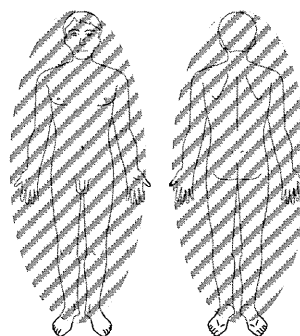
【病態】腭癌 (T4, M0)

【ターミナル期】ターミナル中期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

全身倦怠感に対し、鍼灸治療を依頼された。



【東洋医学的所見】

脈診：脾・腎弦、肝無力。舌診：淡白、胖大、嫩舌。触診：足背浮腫。腎気虚、肝胃不和と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍣鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

電子温灸器：e-Qを47±2度×5秒設定にて使用。

使用経穴には疏肝理気を目的に腹部鍣鍼、健脾を目的に公孫、補腎目的に太溪、疏通経絡目的に後溪を使用した。

【総括】

本症例は病態の進行が早く、患者自身が受け入れる間もなく入院に至った事に対し、強いストレスを感じていた。

そのため、状態悪化に伴う全身倦怠感に対して鍼灸治療を希望されたため、施行した。結果、NRS の変化では大きく変化は認められなかったが、介入前後で比較した結果、睡眠時間が増えていることから効果があったと考える。

20130022 (No. 72)

【患者】 73 歳、男性

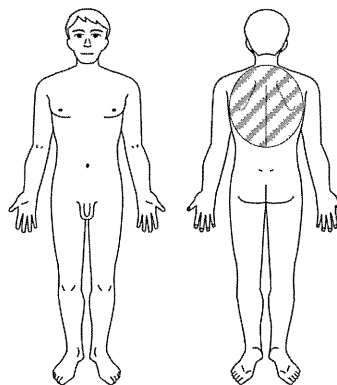
【病態】 肝細胞癌

【ターミナル期】 ターミナル中期～後期

【転帰】 逝去

【鍼灸治療目的】

肩背部の痛みに対して依頼される。



【東洋医学的所見】

脈診：75 回/分、脾・腎弦。触診：右内関緊張圧痛、右期門緊張圧痛、右章門圧痛、右太衝緊張圧痛、左交信緊張。るいそう。声は小さい。神経質なところもある。爪白。軽度足背浮腫。肝血虚、腎気虚と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径 0.12mm、長さ 15mm（セイリン製 5 分-02 番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径 0.2mm、長さ 0.3mm を使用。

電子温灸器：e-Q を 47±2 度×5 秒設定にて使用。

使用経穴には健脾目的に内関、疏肝理気

目的に太衝、期門、章門、肩背部の鍔鍼を使用した。

【総括】

本症例は、肩甲間部痛などその日の訴えに対して治療を行った。

患者コメントからも、鍼灸治療を受けていると気持ちいいと言われ、どんなに状態が悪くなっても鍼灸治療を希望された。

これらからも、肩甲間部痛に対しては著効と診断した。また5診目では、不安を語られ、精神的な支えとなりえる可能性があったと考える。

20130023 (No. 73)

【患者】45歳、男性

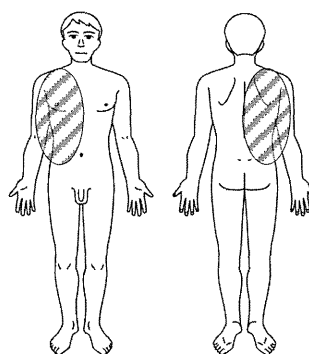
【病態】肺癌

【ターミナル期】ターミナル中期～後期

【転帰】逝去

【鍼灸治療目的】

イライラし、スタッフに声を荒げることもあったためストレス緩和と、右肩～脇腹にかけての痛みに対し、鍼灸治療依頼された。



【東洋医学的所見】

声かけするも、「ああ」「うん」のみ。イライラした様子。

脈診：96回/分、渋、（左側臥位のため、脈診のみ）触診：右外関緊張圧痛、右後溪～腕骨深部緊張、右胆経浮腫。右臨泣圧痛。肝腎陰虚、（心陰虚）と診断した。

【治療方法】

使用鍼：直径0.12mm、長さ15mm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（1～4mm）とする。体調が悪いときには皮膚に接触するだけの鍔鍼（補法：金製、寫法：銀製）を使用した。

円皮鍼：セイリン社製パイオネックス直径0.2mm、長さ0.3mmを使用。

使用経穴には疏通経絡を目的に外関、内